

コラム

2006/06 (2)

こんにちは。副園長の佐藤です。今回は「お父さんの子育て」について綴っていきたいと思います。

我が家では近年、沖縄旅行がブームとなっております。一昨年までは毎年2回は行っていました。その時私（父）は、大まかな行き先&メインとなる活動だけを決めます。例えば、〇〇島とか××ホテルとか。そして具体的な予定は殆ど、妻が決めています。私はダイビングが趣味なので、「この日は海入ってくるね〜」という計画は伝えておきます。そうすると、女性というのは細やかなもので、自分と子ども達、そして（海に入らない時の）私の予定をみんな決めてくれます。どうも、この決め方は我が夫婦に合っているようなのです（気づくまでは出先で言い合いがしょっちゅうでした）。この、「大まか=抽象的」「細かく=具体的」という役割分担は、双方が責任を持つ良さがあると共に色々な面で通用するような気がします。

一時、「お父さんも子育てを」というフレーズで、「2人目のお母さん」を目指そうという雰囲気がありました。オムツも換えなきゃ、ほ乳瓶も扱えなきゃ…と。しかし、それはそれでイイコト・できるに越したことはないと思いますが、私は本質的とは思えません。何せ、子どもと接している時間が圧倒的に違うのです。その差を無視して、同じような役割を求めるのはどうなのでしょう。

精神面での子育て

実際、お母さんたちの話を聞いていると、子育て中というのは相当のストレスがあるようです。社会と触れていないのではないか、自分自身さえ思うようにならない…いろいろな不安があるようです。

お母さんに余裕のない時、よい子育て・よい子育てがあるとは思えません。お母さんを支えることは、お父さんのできる、立派な子育てだと思います。具体的には、「〇時間は子どもの面倒を見るから、自由にして出かけていらっしやい」もあるでしょうし、腰をもむのもいい（これは即効性があります）。

お母さんの話を聞く、というのもいいでしょう。この時大切なのは、カウンセリング的構えです。具体的な問題については、大抵が悩んでいる本人の中に解決策があります。それを本人が発見・実践していく後押しをするのがねらい。具体的回答は、接する時間の短いお父さんが考えるより、お母さんが出した方が良いのが大半では？

お父さん。「この時間は、家内にあげよう」と決めてみたらいかがですか。彼女が漠然と抱いている気持ちを明確にしていく事こそ大事です。ご自身が選んだ相手なのでから大丈夫、解決は彼女自身が見つかるはず。その手助けが必要なのです。些細な経過については、言ってみればどうでもいいので聞き流し、彼女がどう感じているのか、どうしたいのか、に焦点を絞って、話を聞いてあげてください。彼女がどう感じているのか、を認めてあげられれば

(そうか、そんな風を感じるんだね)、大抵は温和しくなります(笑)。つまり安定します。「私の気持ちが分かってない」と僕もよく言われますが、彼女が求めているのはそこなのです(必ずしも同意する必要はありませんが、「彼女の」気持ちとして受け止めてください)。

働き盛りですし…

特に男の子にとって、父親は、何と言っても「自分の将来像」を見せてくれる素晴らしい存在です。でも仕事で遅い。本当に難しいですね。でも、「お父さん今日も遅いわね、マッタク」は…。素直な気持ちとしては分かりますが、子どもには「遅くまでみんなのために頑張ってるわね」と言ってあげてください。「どうせ…」という扱いをしていると、イザという時お父さんからの抑えが効かなくなります。男にとってプライドが結構大切ですから、立ててもらって嬉しくない人はいないと思います。

子どもにせがまれ、即受け入れられない時は「お父さんに聞いてみましょう」というのはいかがですか。結局はお母さんが決めて良いのですが、「母子1対1で引き分け」よりも2対1になると、案外子どもも素直に受け入れられるものです。「兎に角お父さんがダメと言っている」というのも、たまには使えるでしょう。その場に姿は現さなくても、存在を感じさせるだけで子どもが安定してくることもあるそうです。

もっと直接的に

明らかに、「お母さんより、お父さんがやった方がイイコト」は、あります。キーワードは「クエスト」です。ドラクエのクエ、です。

まず絵本読みでは、怪獣もの、オバケもの。これを抑揚たっぷりに読むと、子どもの集中度合いは高くなります。ノンビリ・ホンワカものはお母さんの方が良いようです。これは、先を見ると「闇・挑戦・未開・死…」を無闇に恐れぬことにつながります。「ドキドキするけれど、お父さんがいるから大丈夫」って、父親冥利な気がします。可能ならばお母さんは、子どもと一緒にドキドキする方にまわってください。

遊びでは、運動感覚系のもの。最初はバランスが崩れるだけで大喜びで、高い必要はありません(これについてはいつか書きます)から、バランス崩れた→持ち直した!だけで十分楽しいようです。子どもが「もっと」とせがんだら、小出しにレベルアップしていくのが良いでしょう。

どちらにせよ、未知なる世界へ手を引いていってくれる、そんなイメージの関わり方が良いのではないのでしょうか。そして、「父の日」には子どもと一緒に「アナタ、いつもありがとう」と言ってあげてください。単純ですが嬉しいものです。

★念のためですが、「社会への男女共同参画」について否定的なわけではありません。